

## 附表2

# 障害福祉に関するアンケート調査の結果

長崎県福祉保健部障害福祉課



## ○障害福祉に関するアンケート調査の結果

本計画を策定するにあたり、本県における障害者の実態や、今後の障害者施策に関する希望などを把握するため、障害のある方々を対象にアンケート調査を実施しました。

### (1) 調査の概要

#### ①調査の時期

平成30年7月～8月

#### ②調査の対象・方法

長崎県在住の各手帳所持者から無作為抽出した対象者へ調査票を郵送

#### ③回答の状況

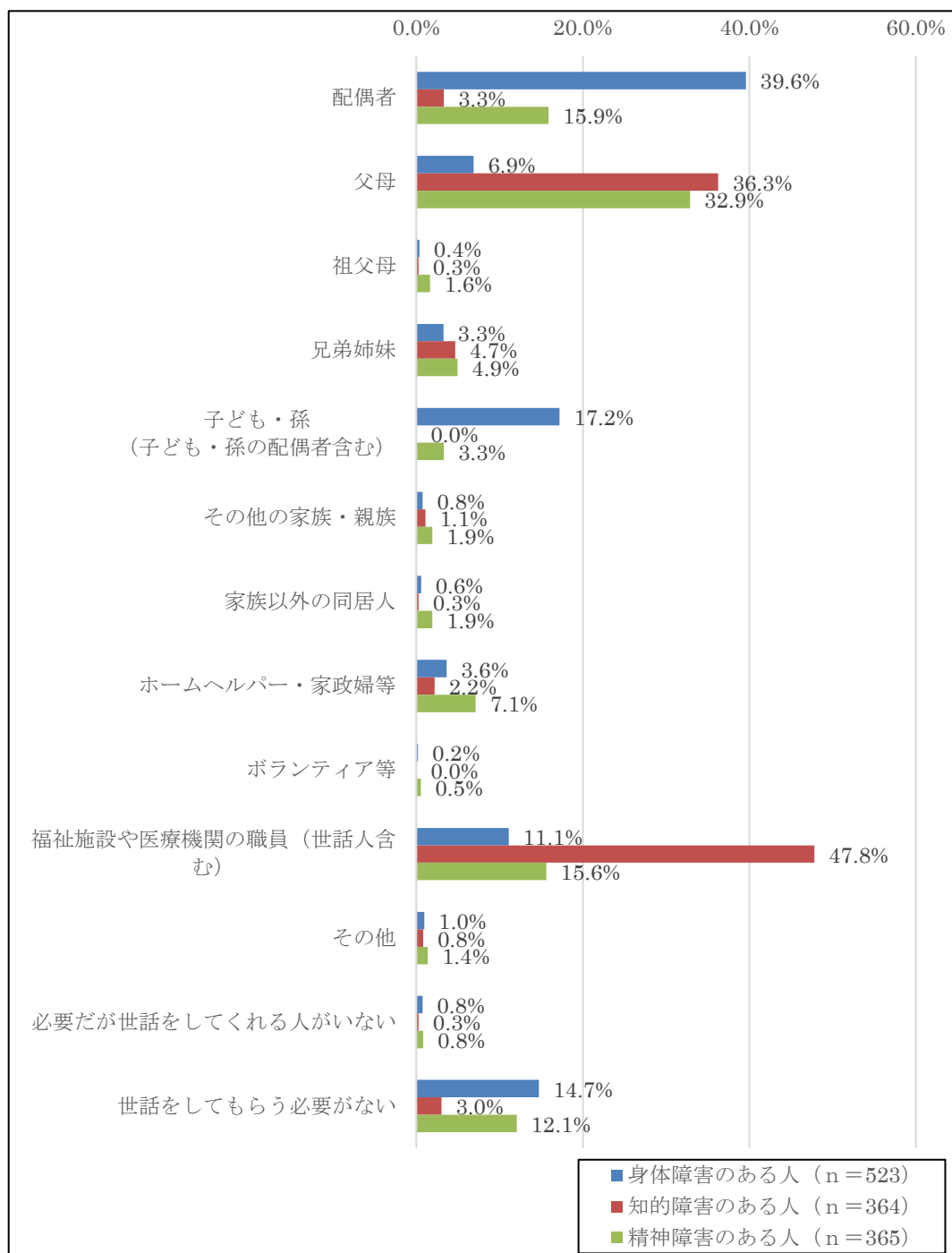
(単位：人、%)

	総数 (30.3.31現在) (A)	抽出数 (B)	有効回答数 (C)	回答率 (C/B)
身体障害者 (身体障害者手帳)	74,922	1,500	537	36%
知的障害者 (療育手帳)	15,054	1,000	365	37%
精神障害者 (精神障害者保健福祉手帳)	10,981	1,000	371	37%

## (2) 調査結果の概要

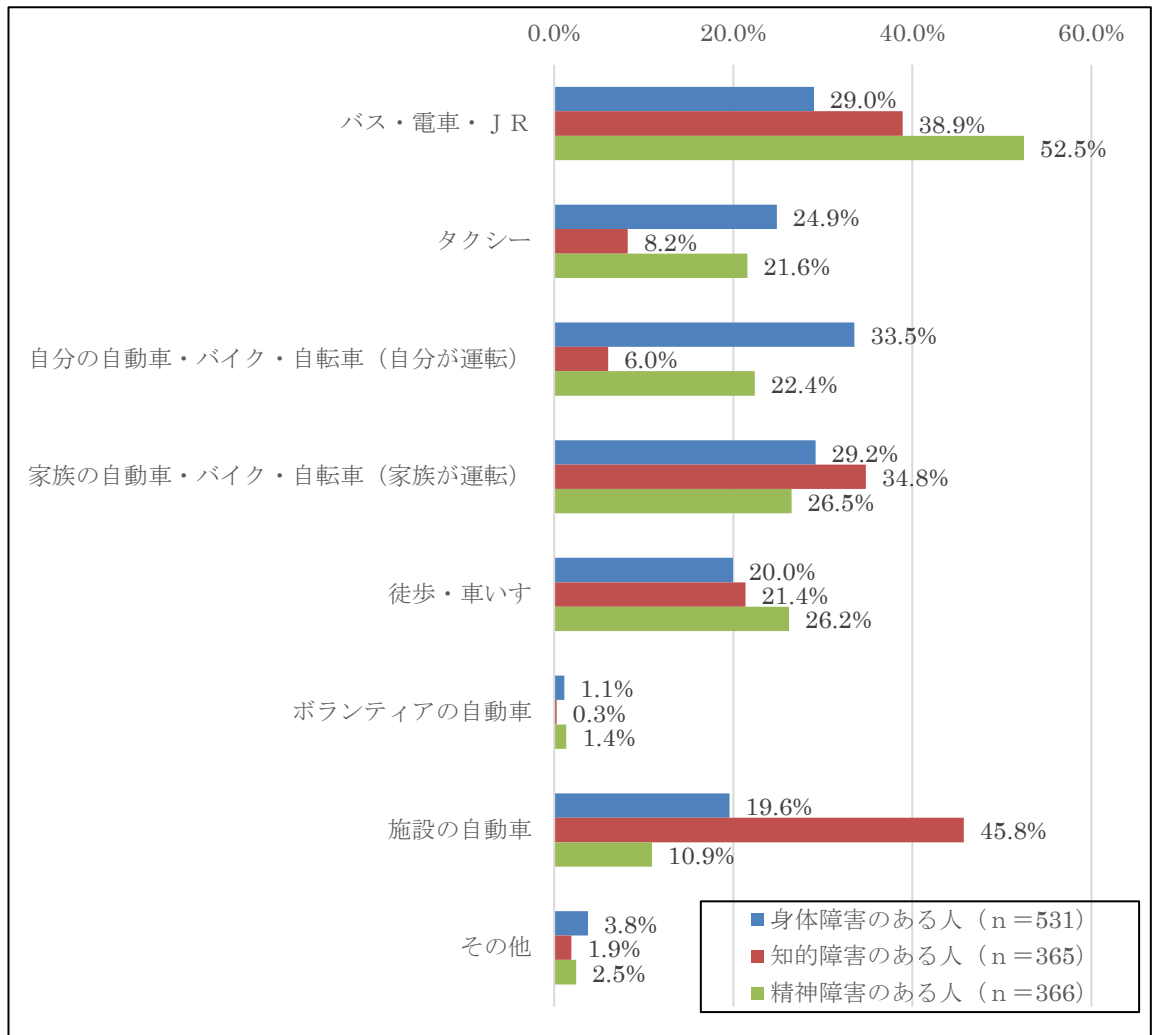
### ①主な支援者

最も割合が高いのは、身体障害のある人が、「配偶者」で39.6%、知的障害のある人が、「福祉施設や医療関係の職員（世話人含む）」で47.8%、精神障害のある人が、「父母」で32.9%となっています。前回のアンケートと比べると、知的障害のある人の「父母」の割合が減って「福祉施設や医療関係の職員（世話人含む）」の割合が高くなっています。



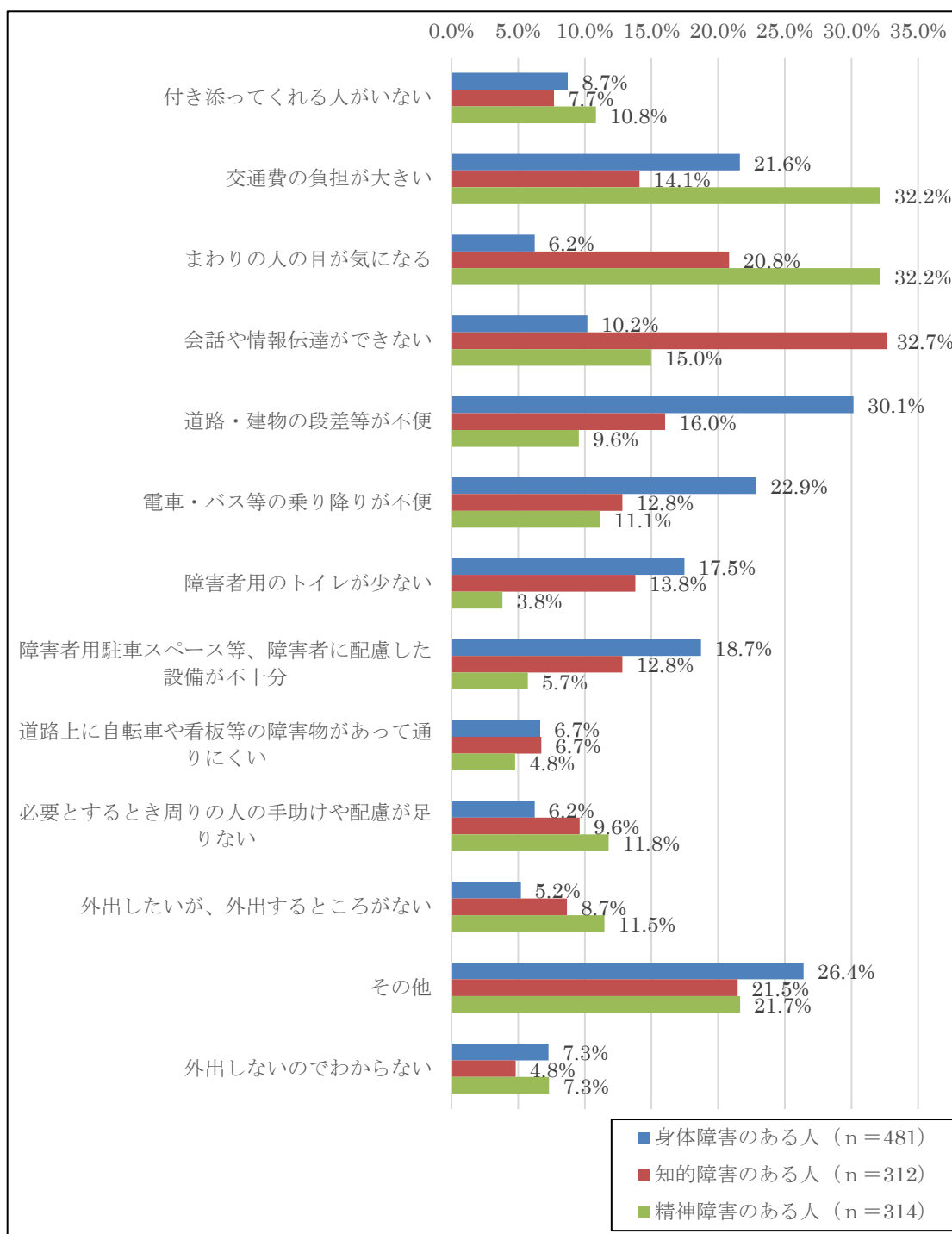
②外出時の移動手段（複数回答）

最も割合が高いのは、身体障害のある人が、「自分の自動車・バイク・自転車（自分が運転）」で33.5%、知的障害のある人が、「施設の自動車」で45.8%、精神障害のある人が、「バス・電車・JR」で52.5%となっています。前回のアンケートと比べると身体障害のある人の「バス・電車・JR」の割合が減って「自分の自動車・バイク・自転車」の割合が高くなっています。



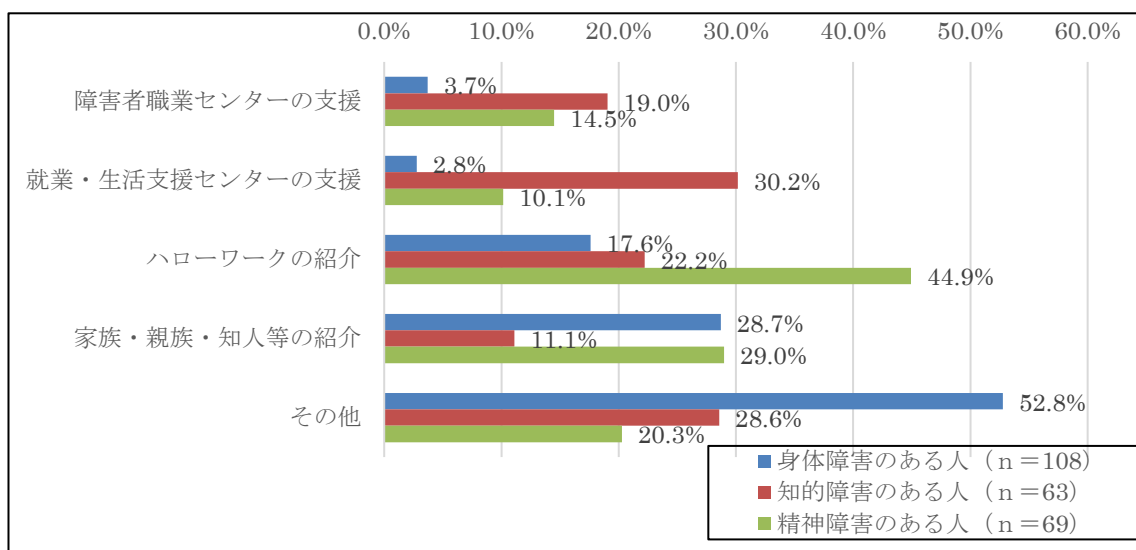
### ③外出時に不便・困難に感じること（複数回答）

最も割合が高いのは、身体障害のある人が、「道路・建物の段差等が不便」で30.1%、知的障害のある人は、「会話や情報伝達ができない」で32.7%、精神障害のある人は、「交通費の負担が大きい」と「まわりの人の目が気になる」がどちらも32.2%となっています。前回のアンケートと比べると「その他」の割合が増えており、内容としては「特にない」という意見から「障害者用スペースに健常者が車を止めている」、「支援者の都合がつかないと外出できない」、「バスの便が少ない」、「公衆トイレが少ない」などの意見がありました。



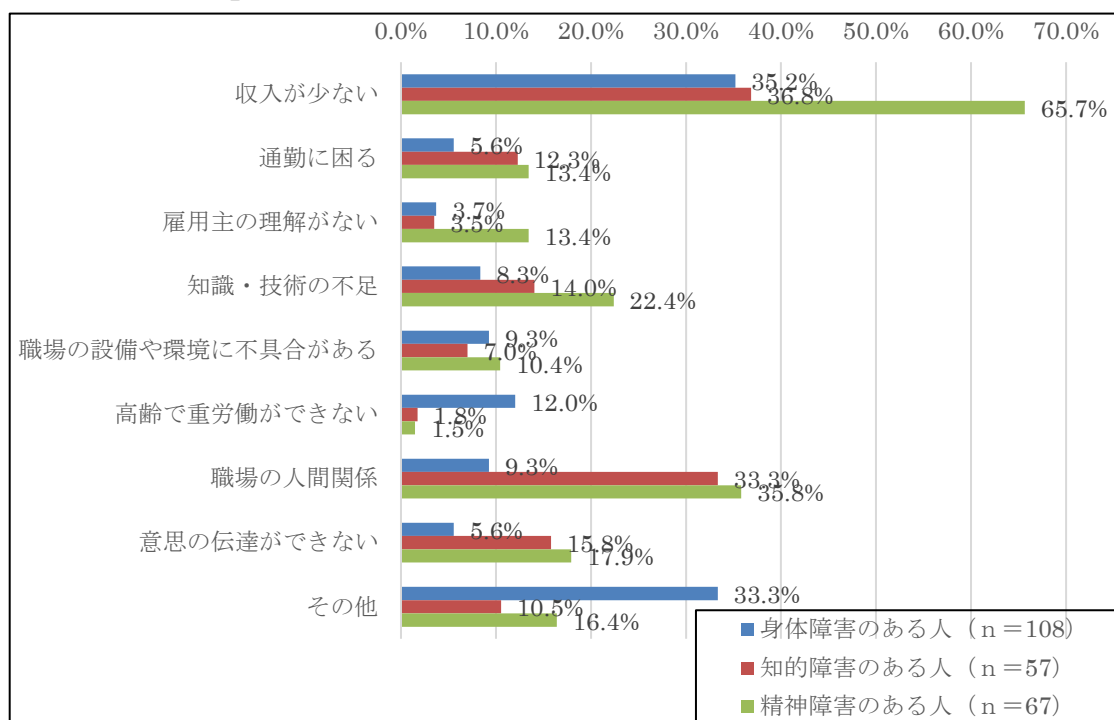
④現在の就職先へ就職した経緯（複数回答）

最も割合が高い（「その他」を除く。）のは、身体障害のある人が、「家族・親族・知人等の紹介」で28.7%、知的障害のある人が、「就業・生活支援センターの支援」で30.2%、精神障害のある人が、「ハローワークの紹介」で44.9%となっています。前回のアンケートでは全てにおいて割合が高かった「家族・親族・知人の紹介」のうち知的障害のある人、精神障害のある人で別の経緯による就職が増えています。また、その他の回答として「学校」、「求人誌」、「新聞」、「ネット」などの回答がありました。



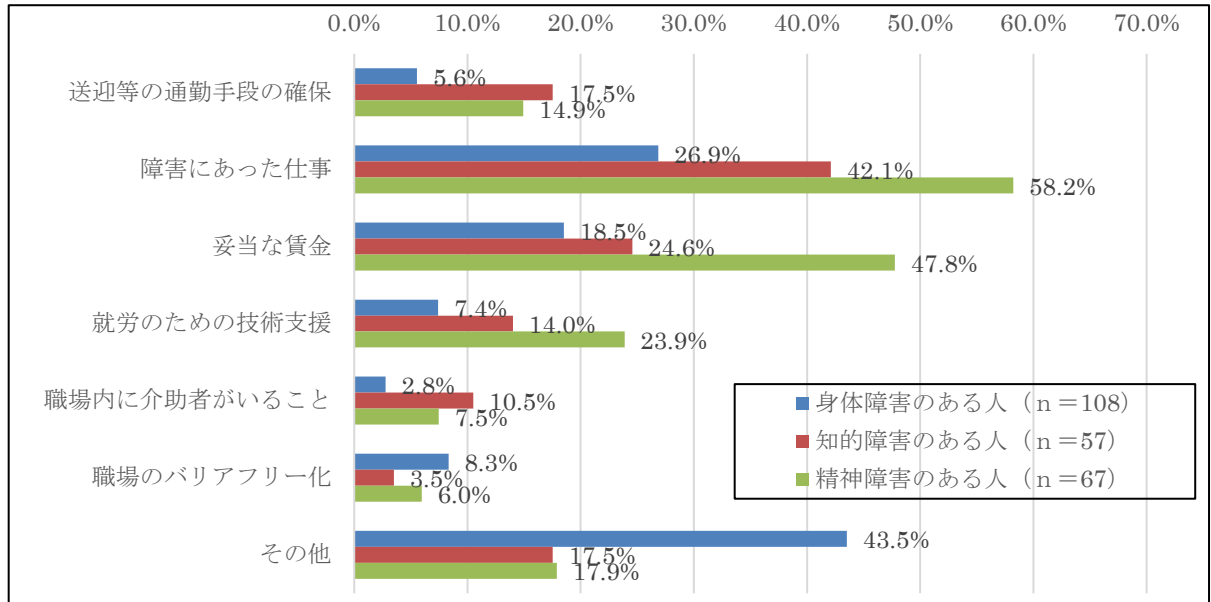
⑤仕事上、不便・困難を感じること（複数回答）

身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて、「収入が少ない」の割合が前回アンケートと同様に高くなっています。



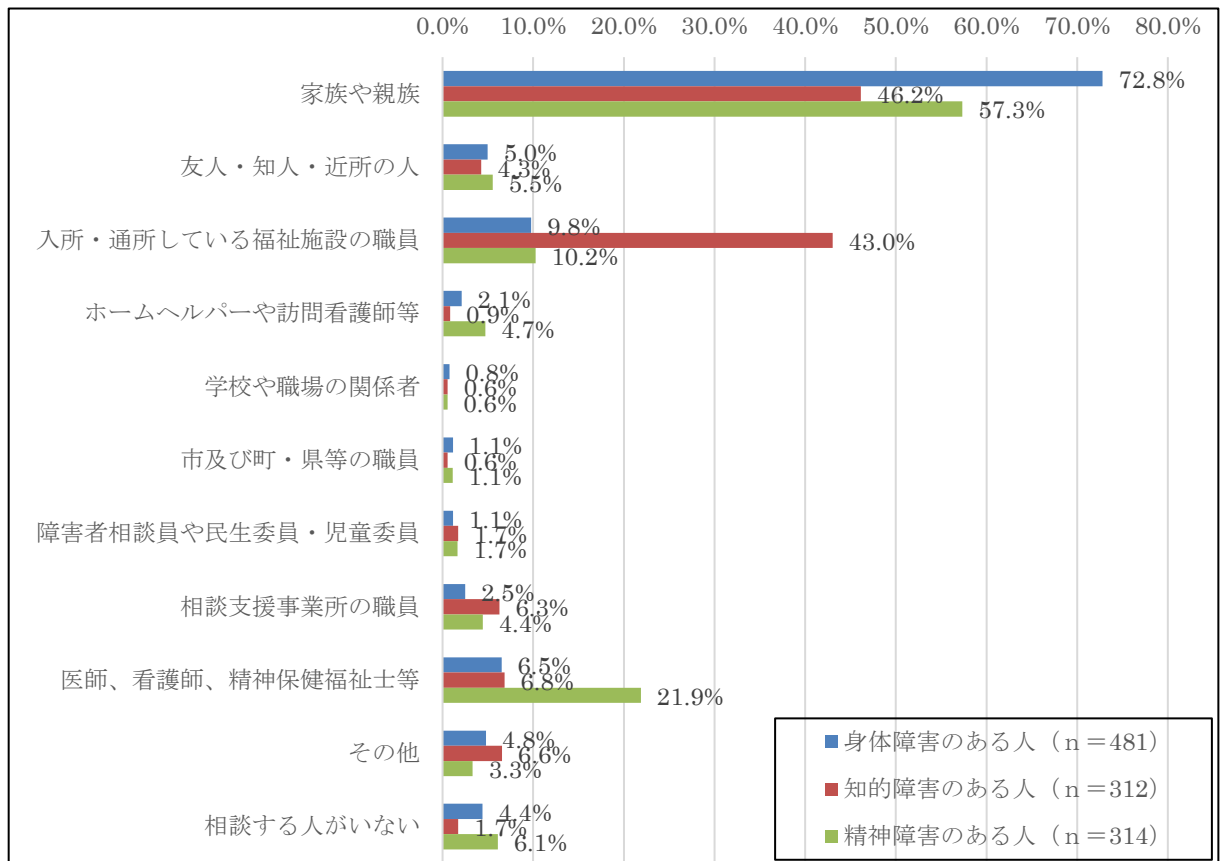
⑥仕事を続ける上での必要な環境や支援（複数回答）

身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて、「障害にあった仕事」の割合が高くなっています。前回のアンケートと比べると身体障害のある人と知的障害のある人で「妥当な賃金」の割合が減少しています。



⑦障害や生活上の相談相手

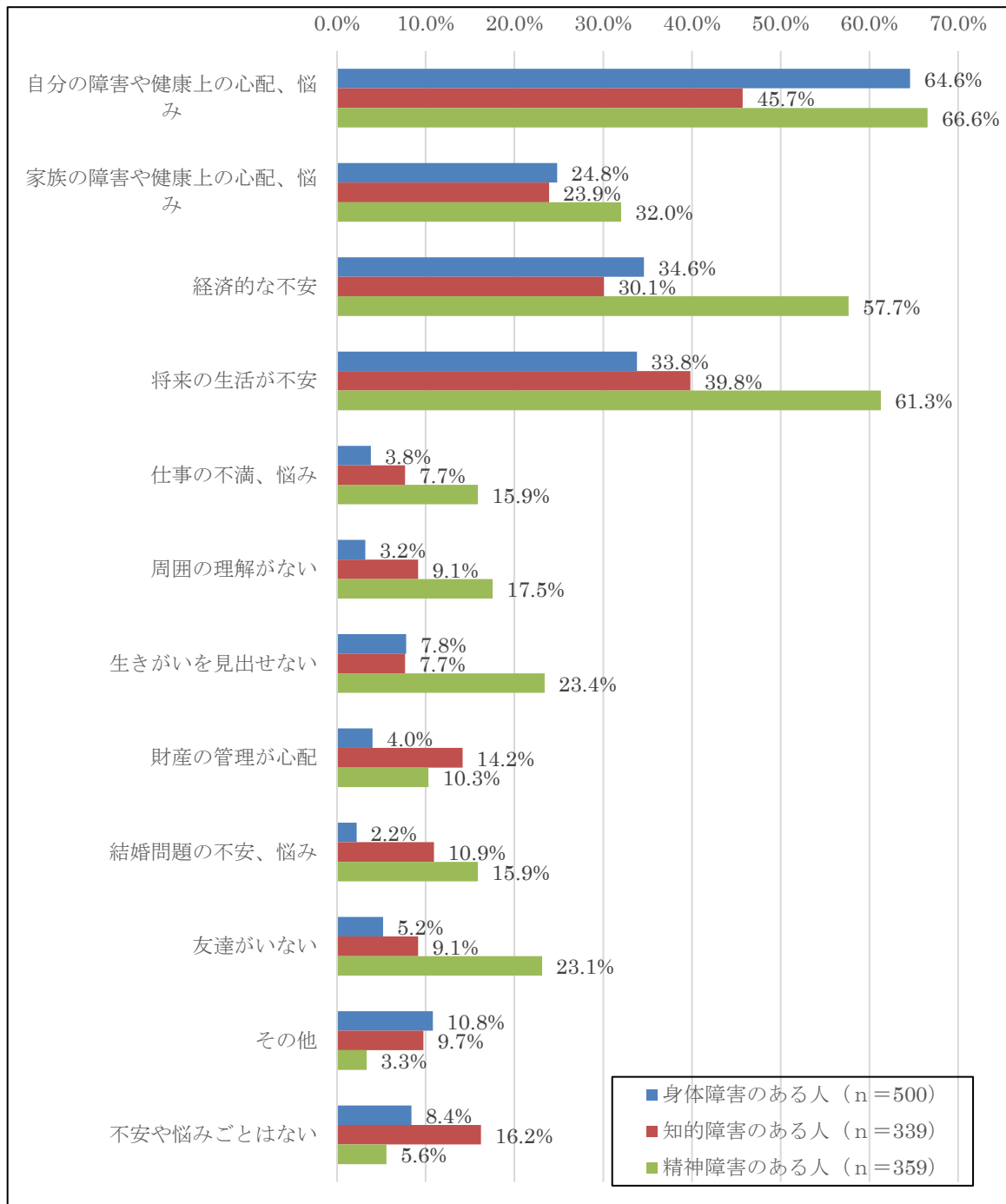
身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて、「家族や親族」の割合が前回アンケートと同様に高くなっています。





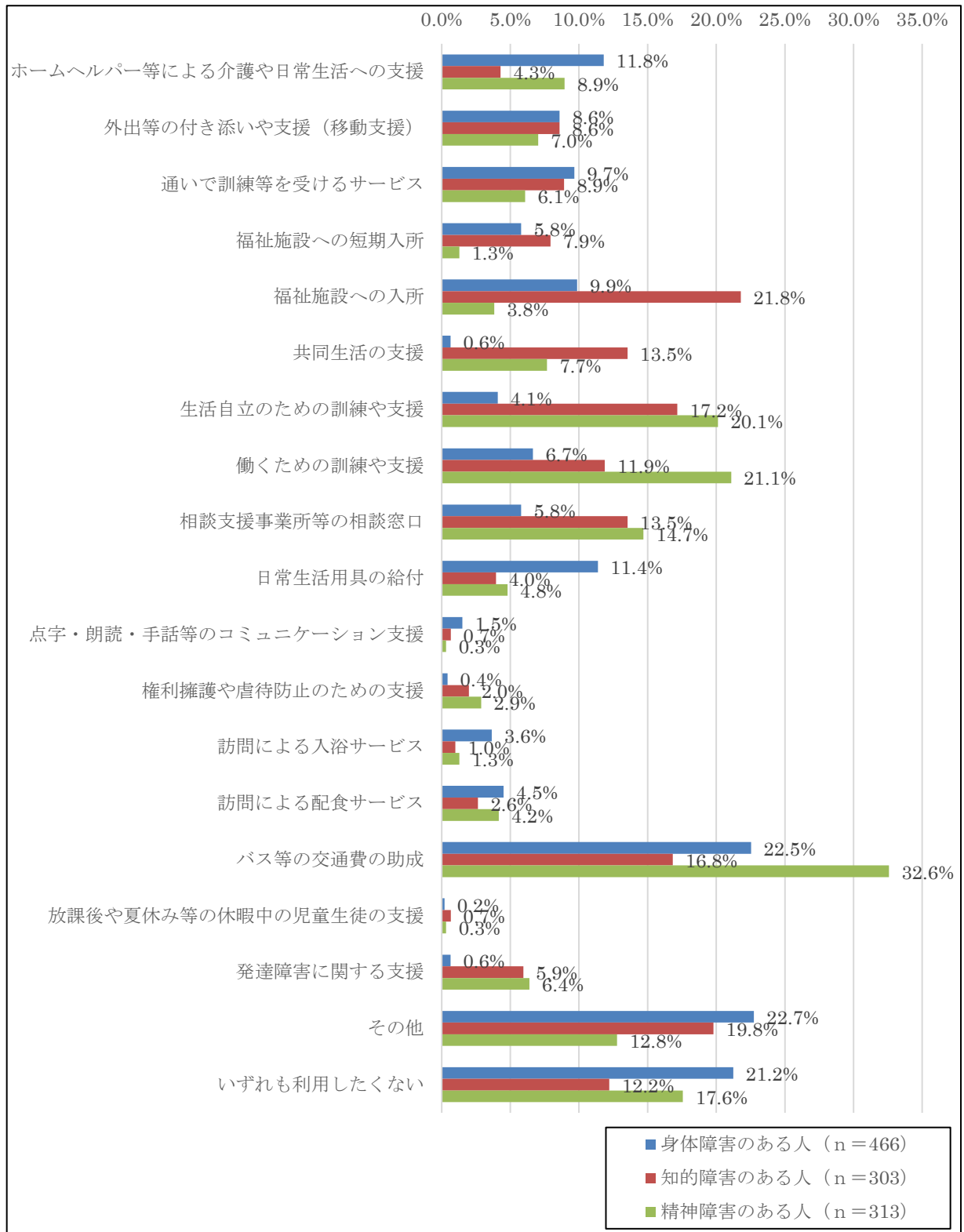
⑧現在、生活の中で困っていることや将来に対する不安や悩み（複数回答）

身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて、「自分の障害者健康上の心配、悩み」の割合が高くなっています。前回のアンケートと比べると知的障害のある人の「将来の生活が不安」の割合が減少しています。



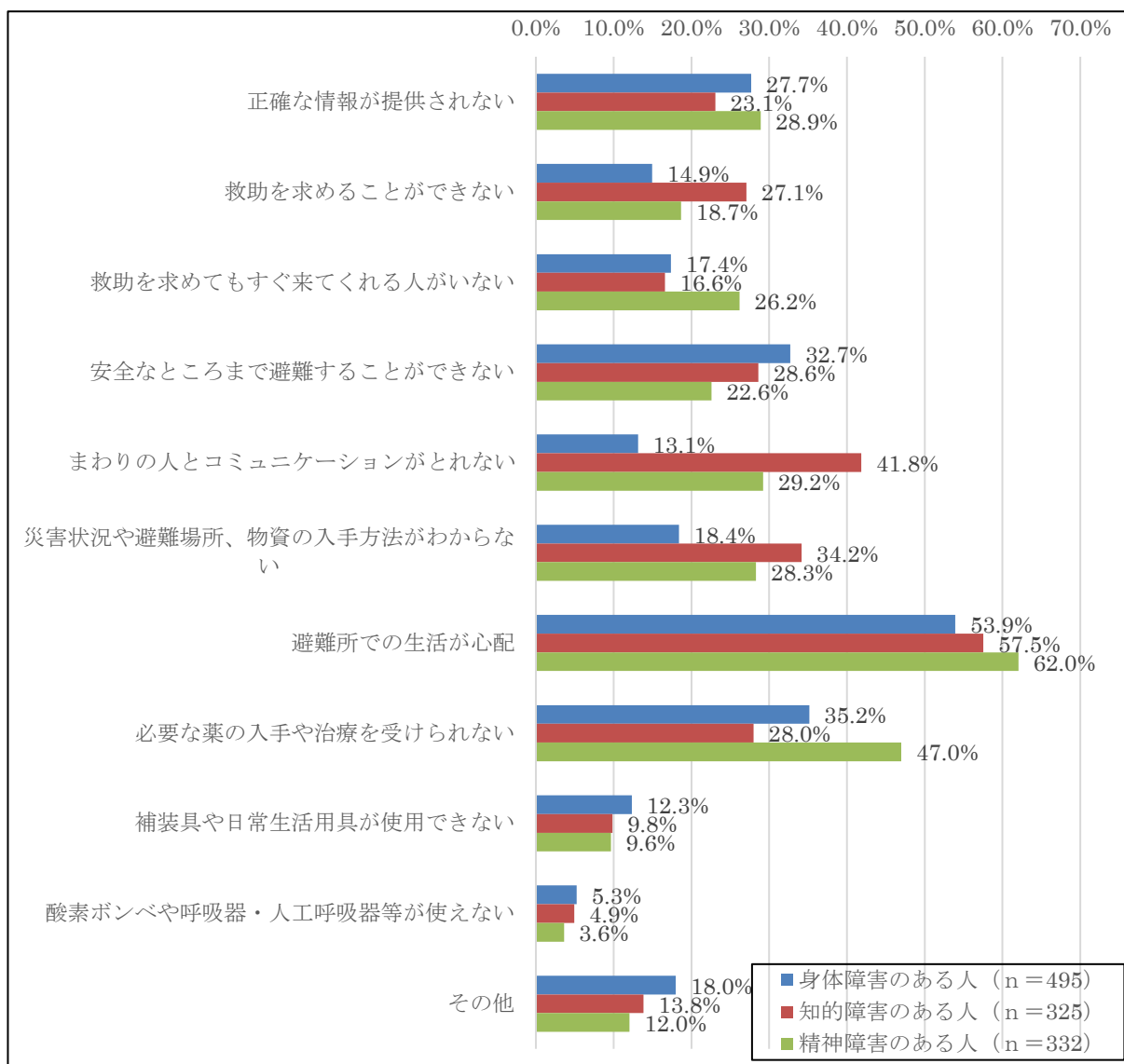
⑨今後利用したいサービス（複数回答）

最も割合が高いのは、前回のアンケートと同様に身体障害のある人及び精神障害のある人が、「バス等の交通費の助成」でそれぞれ22.5%と32.6%、知的障害のある人が、「福祉施設への入所」で21.8%となっています。また、その他の意見として「訪問看護」、「訪問リハビリ」、「日中一時預かり」などがありました。



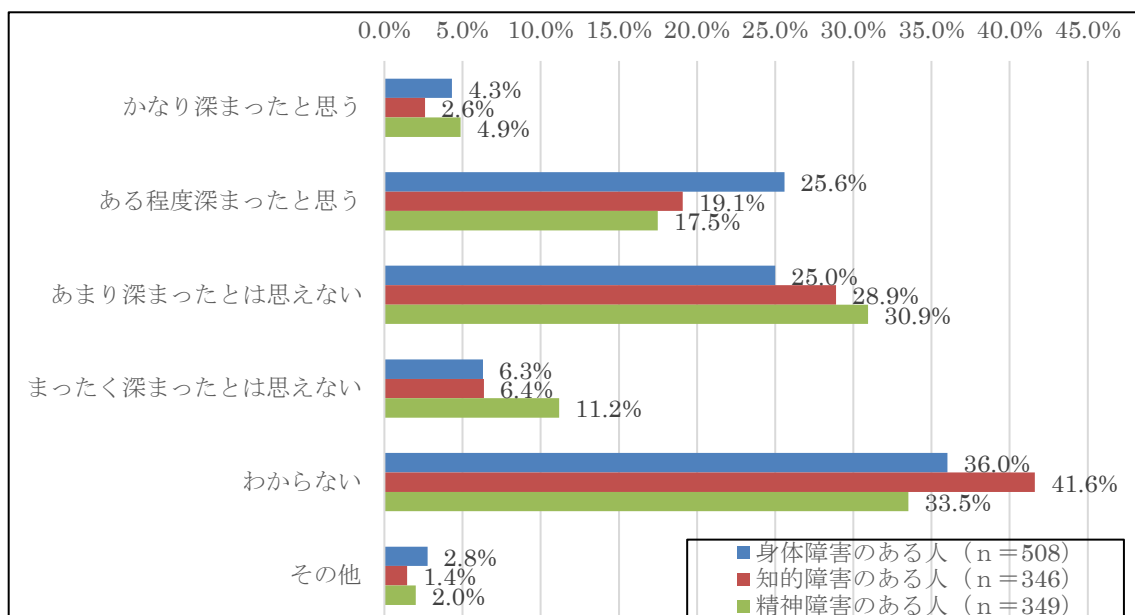
⑩大きな災害が起きた場合に心配なこと（複数回答）

最も割合が高いのは、前回のアンケートと同様に身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて、「避難所での生活が心配」となっています。また、その他の意見として「視覚障害があり夜間の行動が困難」、「洋式トイレがない」、「金銭面の不安」、「パニック時にどうしたらいいかわからない」などがありました



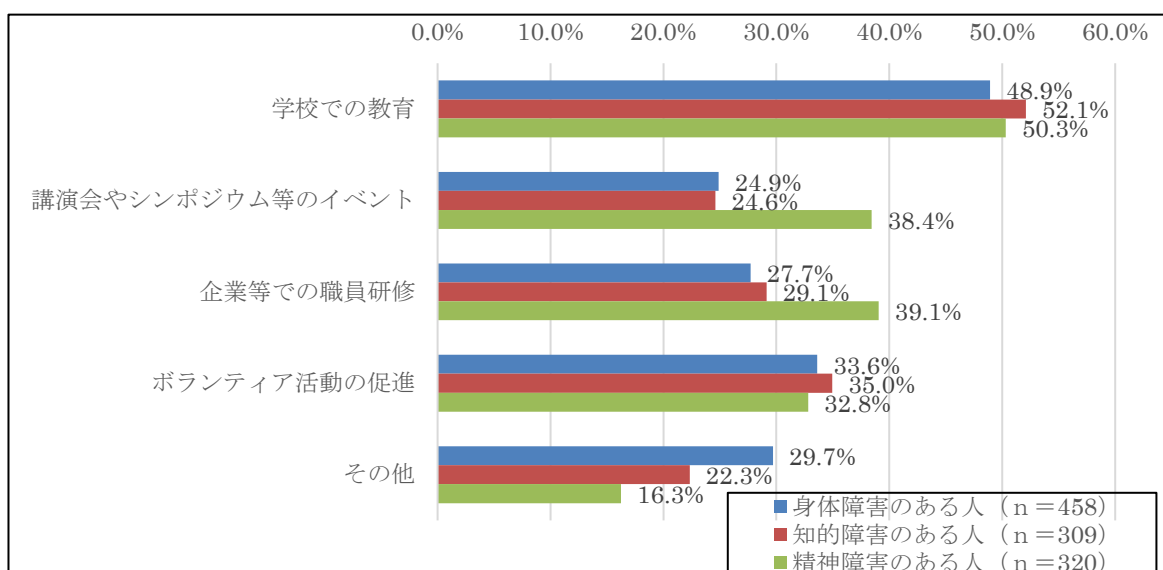
### ⑪障害のある人に対する県民の理解

「かなり深まったと思う」と「ある程度深まったと思う」の割合が、身体障害のある人が29.9%、知的障害のある人が21.7%、精神障害のある人が22.4%となっています。これに対し、「あまり深まったとは思えない」と「まったく深まったとは思えない」の割合が身体障害のある人は31.3%、知的障害のある人が35.3%、精神障害のある人で42.1%となっています。前回のアンケートと比べると「深まったとは思えない」の割合が身体障害のある人と精神障害のある人で高くなっています。

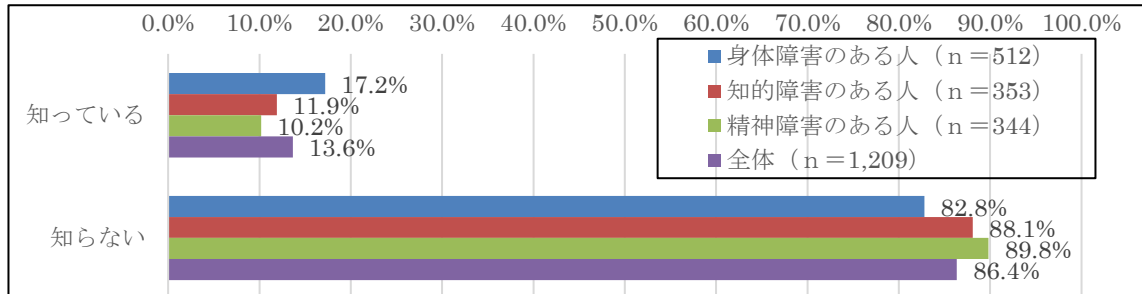


### ⑫障害のある人に対する県民の理解を深めるために必要なこと（複数回答）

最も割合が高いのは、前回のアンケートと同様に身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて、「学校での教育」となっています。また、その他の意見として「TVの広報」、「体験学習」、「障害のある人が積極的に動きイベント等へ参加すること」などがありました。

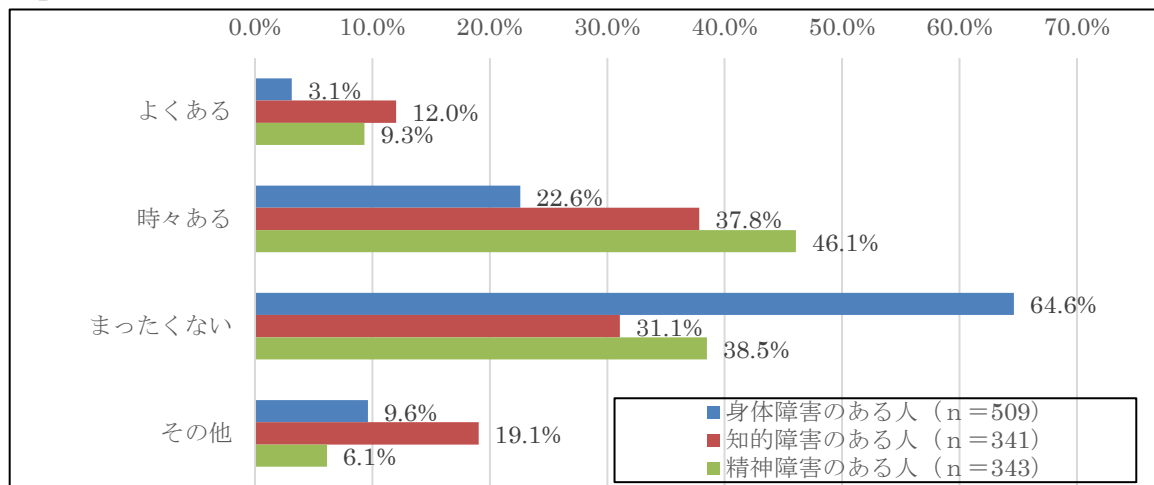


- ⑬「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」の認知について  
「知っている」の割合が、身体障害のある人が17.2%、知的障害のある人が11.9%、精神障害のある人が13.6%となっています。今回のアンケートから追加した内容で条例を「知らない」方が多数となっています。



⑭障害に関する差別

「まったくない」の割合が、身体障害のある人が64.6%、知的障害のある人が31.1%、精神障害のある人が38.5%となっています。これに対し、「よくある」と「時々ある」の割合が身体障害のある人は25.7%、知的障害のある人が49.8%、精神障害のある人で55.4%となっています。前回のアンケートと同様に知的障害のある人と精神障害のある人で「よくある」、「時々ある」の割合の方が「まったくない」の割合より高くなっています。



⑮行政が充実すべき障害のある人に対する支援（複数回答）

最も割合が高いのは、前回のアンケートと同様に身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人の全てにおいて「年金や手当の充実」となっています。

